



市史編纂だより 娯

「戦後」と「戦後池田」
について考える

「終戦」と「敗戦」

前回、戦後は第二次世界大戦の終わった1945（昭和20）年8月に始まると書いた。天皇の「玉音放送」によって敗戦が告げられた8月15日である。現在もこの日は「終戦記念日」とされ、東京で式典が行われ、甲子園の高校野球では選手と観客が黙とうをする。

実は終戦の日については以前から多少の異論があった。最近刊行され



インタビュー時の若生正元市長

た孫崎享『戦後史の正体』にも、日本がアメリカの戦艦ミズリー号上で降伏文書に署名した9月2日こそ世界大戦の終わった日だと記されている。戦後の日本が8月15日を「終戦の日」にしたのは、「終戦」とすることで、「敗戦」の事実をあいまいにする意図があるという。著者は、外務省のキャリア官僚の出身である。本は昨秋のベストセラーになった。

海外では15日以後にも戦闘が続いたところもあるし、「敗戦」を「終戦」と言い換えるというのは、戦後に数々作り出された神話の一つかもしれない。とはいえ、圧倒的多数の国民が、「玉音放送」を聞き敗戦の事実を知ったのは確かといえる。その受け止め方に、人それぞれの戦後の歩み、あるいは戦後日本の軌道が示唆されているようにも思える。

オーラル・ヒストリー

『新修池田市史』第4巻（現代編）では、池田にゆかりのある方々から話を聞き、市史の執筆に活用させてもらった。いわゆるオーラル・ヒストリーである。

わたしは政治・行政部分の執筆担当だったので、話を聞いたのは主に池田市政の関係者である。その際、1945年8月15日をどう迎えたかと質問した。インタビューは2006（平成18）年から翌年にかけて実施したから、この質問に答えていただけなのは70歳台、80歳台の方で

ある。残念ながらこのやりとりは紙数の関係で市史に収録できなかった。補遺の意味も込めて、以下に紹介したい（敬称略）。

元市長の8月15日

若生正は、1975（昭和50）年から50期2年にわたって池田市長を務めた人物である。

敗戦の日を迎えたのは、神奈川県秦野町（現秦野市）であった。21歳の兵長として、相模湾からのアメリカ軍上陸を迎え撃つ任務についていた。

「何か放送があるで言うて、集まれいさかい、集まったら玉音ですわ」「ラジオいのでなくスピーカーみたいなので、ガーガーいうて聞こえしまへん」「ああ、また働けいふこつちゃでえと。それで、そう言うてたら、もう戦争終わってんと。そーかあ言うて、山行って早よ逃げ出さんと、アメリカ来よったらこれからゲリラやで言うて」（2006年3月16日採話）。

若生元市長は軍隊の雰囲気になじめなかつたという。そんなおらかな人柄が終戦体験に表れている。後年、成熟期の池田において安定市政を築き上げることができた要因の一つと思われる。

（池田市史編纂委員会委員・芝村篤樹）
問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（754・6674）

ギャラリーコーナー

<p>【ギャラリーいけだ】</p> <p>4 scene（金井良勝・川村信子） ~ 2/4</p> <p>4 scene（森本克彦・堀百合子） 2/6 ~ 11</p> <p>見野大介陶芸展 2/13 ~ 18</p> <p>井手津久雄陶芸展「生ける器」 2/27 ~ 3/4</p>	<p>【開館時間】10:00～19:00(最終日は16:00まで)</p> <p>【休館日】火曜日、2/20 ~ 25</p> <p>【入館料】無料</p> <p>【使用料】</p> <p>ギャラリーいけだ 5万円(展示販売不可)</p> <p>ギャラリーVEGA 15万円(ブロックの分割使用=7・10万円=、展示販売も可)</p> <p>【使用期間】水～翌週月曜日の6日間</p> <p>【申し込み】使用希望月の1年前から</p>
<p>【ギャラリーVEGA】</p> <p>遊“織”色（さをり織教室展） ~ 2/4</p> <p>カルチャーVEGA教室 春展 ~ 2/4</p> <p>「猪名川の『い〜な!』大募集」応募作品展 2/6 ~ 11</p> <p>梅花女子大学短期大学部 生活の美・アート展 2/13 ~ 18</p> <p>クラフトワークス2013 PART1 2/27 ~ 3/4</p>	

使用申し込みは
いけだ市民文化振興財団
(750・3333)

わがまち 歴史散歩

市史編纂だより 嬉

「戦後」と「戦後池田」 について考える

1945（昭和20）年8月15日の「玉音放送」をどう受け止めたか。池田の市政関係者の証言の続きである。前回の若生正元市長に次いで、元市議会議長の話から始めたい（敬称略）。

「まあ、しゃあないなあ」

奥村靖一は、大阪第二師範学校（旧池田師範）を卒業し、国民学校教員を勤めた後に招集された。復員後は教員に復帰し、池田市教職員組合の創設にかかわり、戦後2回目の市議会選挙に当選し、議長を何度も務めるなど市議会の有力者として活躍した。敗戦のときは和歌山市近くに駐屯する部隊に所属する見習士官であった。

「（玉音放送は）私はなんかの都合で、部隊からちょっと離れて、どこかで聴いたような気がする。どっかの学校の運動場なんかで」（私は）まあ、しゃあないなあ、と思っただ。こんなもんやろと思っただ」（06

年6月8日採話）

「終戦やいうのが、分かんかったんですよ」

井上丞二は、池田市の水道課勤務のときに召集され、敗戦時には宮崎県と熊本県の県境にある小さな村の民家に数人の兵たちと分宿していた。「なんか重要な放送があるから、私ももちろん兵隊の星一つのね、一番最下位の兵隊ですから、あの聴きに行け言われて」「家のラジオの前に集まったんですね。ところがそのラジオが、もう何言ってるんかさっぱり分かりませんねん」「誰もそのとき終戦やいうのが、分からなかったんですよ」「ほいで2、3日後になつてから、『みな復員するぞ』いうて言われたんですよ。その復員するという言葉すら私ら聴いたことない言葉でねえ。よく後で説明してもらったら、戦争、済んだゆうことで」「それがもう、うれしくてねえ」（07年3月19日採話）

「梅田から難波まで歩きましてん、御堂筋を」

富士井勘一は、当時、旧制中学の4年生を終え兵庫県の神津村（現伊丹市）の自宅から川西航空機（現神戸市東灘区）に、勤労働員で通っていた。動員先が空襲に遭い、十数人の級友を亡くした。富士井は後に、池田市職員組合委員長を務めている。「玉音放送」は、自宅において一家

全員で聴いた。

「玉音放送を聴いて、ああ日本負けやと。ほな世間がどないなってるかいなあ」と、子ども心に「外へ出て、伊丹から塚口行く電車乗って。ほいで、塚口から今度は梅田へ」

「電車に乗る人、降りる人、もちろんなんかこう魂抜けたような動きでしたね」「梅田から難波まで歩きましてん、御堂筋を」「大丸やらそこの百貨店の窓からね、革製品とかねなんか一杯窓から放り出しましたわ」「もう世界が、あんだ、ころつと変わってる姿を見て、まあ、びつくり仰天ばかりして」（07年4月25日採話）

8月15日の「玉音放送」の受け止め方は、このように池田市政の関係者に限っても多様であった。敗戦時の映像としてよく目にする光景は、皇居に向かって土下座する人々の姿である。しかしそれは、本当に国民多数の気持ちを表現していたのだろうか。

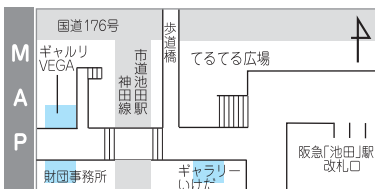
（池田市史編纂委員会委員・芝村篤樹）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（754・6674）



1945年3月、心斎橋から難波辺りの御堂筋。右奥に高島屋・松竹座（大阪国際平和センター蔵）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

井手津久雄陶芸展「生ける器」	~ 3/4
渡辺雅夫木象画展	3/6 ~ 11
山田訓生写真展「京都まちなかのかたち」	3/13 ~ 18
増井直人水彩画展「山の記」	3/20 ~ 25
野上浩司絵画展 油彩&パステル	3/27 ~ 4/1

【ギャラリーVEGA】

2013クラフトワークス PART 1	~ 3/4
2013クラフトワークス PART 2	3/6 ~ 11
現代精鋭作家展（山本正二・西村滋・吉田哲夫・佐藤丞任）	3/13 ~ 18
第3回「いろいろ絵画展」	3/20 ~ 25
「お洒落で遊ぶ」鳴瀬直幸 ペアで楽しむお洒落展 ~ 猪股路子を偲ぶ~ 切り絵回顧展	3/27 ~ 4/1
「切り絵で巡るわが町いけだ」	3/27 ~ 4/1

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）

【休館日】火曜日

【入館料】無料

【使用料】

ギャラリーいけだ 5万円（展示販売不可）

ギャラリーVEGA 15万円（ブロックの分割

使用＝7・10万円＝、展示販売も可）

【使用期間】水～翌週月曜日の6日間

【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
いけだ市民文化振興財団
（750・3333）

わがまち
歴史散歩

市史編纂だより⑨③

「戦後」と「戦後池田」

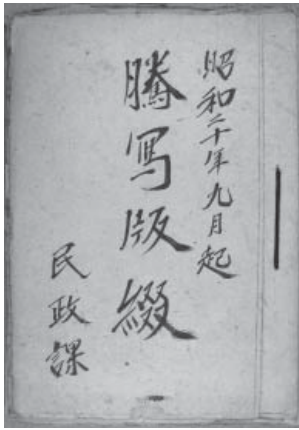
④ について考える

戦前と戦後

1945（昭和20）年の敗戦によって、アメリカ占領軍の力を背景に、軍国主義の解体と民主国家の建設をめざす改革が急激に実施された。

戦後改革は、日本をどのように変えたか？ 変えなかったか？ 戦後の平和と民主主義とは何であったか？ こんなことを考えている折から、興味をそそられる本に出会った。

『田中角栄』というタイトル、著者は田中角栄の番記者を務めた早野透。田中角栄は、戦後第二回目の衆議院総選挙1947（昭和22）年において28歳の若さで初当選し、1972（昭和47）年に総理就任。しか



1945年9月起の「騰（騰）写版綴」

し「今大閣」ともてはやされたものつかの間、ロッキード事件に絡んで起訴され、裁判中の1993（平成5）年に亡くなった。

戦後日本の悲しき自画像

この本には、占領軍による民主改革の進行する時期、田中角栄が選挙演説や国会発言で語った彼流の民主主義観が披露されている。

「民主主義とは何か」と聞かれ、答えていく。亭主と女房が違う政党に投票したことを公言すると「家が壊れる」、だから女房はオヤジに「ハイハイと言って」黙って田中角栄に投票すればいい、「それが民主主義です」。衆議院本会議のデビュ一演説は「民主主義論」であったという。「戦後二年間で、『鼻』の利く角栄は『民主主義』を心得た」。

国会では、中小企業への融資拡大を迫り、建設省設置や住宅建設など公共事業の拡充を主張した。「角栄のデモクラシーは、飢餓デモクラシーであり、生活デモクラシーであり、業者デモクラシーであった」。

著者は、田中角栄を「戦後を象徴する政治家」と述べている。「戦後日本の悲しき自画像」とは本の副題だが、「悲しき」の言葉と裏腹に、行間に「角栄大好き」の思いがあらわれている。

郊外都市

池田市には、室町住宅地や満寿美

住宅地をはじめ、既に大正期（1912〜26年）に瀟洒な住宅地が並んでいた。池田は、戦前から日本のモダンな郊外都市の先駆けであった。敗戦から2年後の人口は4万2733人、就業人口のうち農業の比重は14.3%である。阪急電車の「池田」―「石橋」両駅の周辺は市街地を形成していたが、まだ、市内には広い山林・農耕地が広がっていた。食糧難など、敗戦に伴う混乱は池田も例外ではなかった。しかし、空襲の被害は比較的軽かったから、戦前以来の池田の趣は残された。

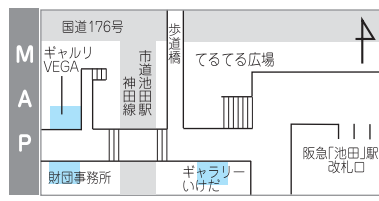
「昭和二十年九月起 騰（騰）写版 民政課」と表題の付いた市の文書綴りがある。そのうち占領軍が関西に進駐する直前の9月の文書は、住民に武器類を直ちに警察まで提出するよう求め、さもなければ「聯合軍ノ不信ヲ買ヒ」「徹底的ニ搜索ヲ強要セラルルコト必定」とある。文面に占領軍への不信がにじみ出ている。

国民貯蓄の増強を要請した11月28日付文書（市長発、貯蓄組合長宛）は、その目的の冒頭に「皇国ノ護持」が掲げられている。敗戦後の数カ月、行政文書にはまだ戦前の気分が漂っていた。

（池田市史編纂委員会委員・芝村篤樹）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6674）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 宮川薫水彩画展 4/3(水)〜8(月)
- 宮本信代展(絵画) 4/10(水)〜15(月)
- 巽和子水彩画展 4/17(水)〜22(月)
- 櫻井聡絵画展 4/24(水)〜29(祝)

【ギャラリーVEGA】

- 吉村美峯作陶展 4/3(水)〜8(月)
- 手仕事の仲間展 4/3(水)〜8(月)
- 種村雄吉写真展 天空への誘い (チベットからエベレストへの道) 4/10(水)〜15(月)
- 石田絵画教室 ひじり会展 4/17(水)〜22(月)
- ザ・スペース小品展 4/24(水)〜29(祝)

【開館時間】 10:00〜19:00 (最終日は16:00まで)

【休館日】 火曜日

【入館料】 無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉5万円 (展示販売不可)
〈ギャラリーVEGA〉15万円 (ブロックの分割使用=7・10万円=、展示販売も可)

【使用期間】 水〜翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
（助）いけだ市民文化振興財団
☎750・3333

「戦後」と「戦後池田」
について考える ⑤

敗戦直後の池田市政

敗戦の年、1945（昭和20）年の11月に、アメリカ占領軍は婦人参政権の付与、労働組合結成奨励、教育の自由化、秘密警察の廃止、経済の民主化の五大改革指令を発した。民主改革は、大方の日本人の予想を超える内容だということが明確になった。

前回、戦後の数カ月、池田市政には「戦前の気分が漂っていた」と書いた。実は、敗戦の事態に向き合ったのは戦時を担った市政の陣容で



戦時中の荘園町内会

あった。市会議員も市長も、「太平洋戦争」開始と同じ41年に選ばれた人たちである（当時の市長は市会が推薦）。北村貞次市長は戦時中の45年2月に市長に再推薦された。

戦後、最初の市会が開催されたのは45年9月である。議案の一つに「戦死者市葬執行ノ件」があった。「大東亜戦争」で「名誉ノ戦死並ニ戦病死」をした「本市出身左記諸勇士ノ市葬ヲ執行」するというのが原案である。

原案に対し、議員から次のような懸念の声が上がった。国の情勢は急テンポで変わっている、こんなとき、戦争中と同じように市葬をするのは「今日ノ情勢ニ適応スルカドウカ」。市長は「府ト御相談申シ上ゲテ置キタイ」と答えた。市政関係者の心は揺れていた（以下敬称略）。

「民主主義」の出現

前回に「昭和二十年九月起 騰（騰）写版綴 民政課」という文書を紹介した。そこに46年2月5日付の「町内会長会議開催ノ件」がみつづられている。従来の町内会の改編について協議するのが議題であった。

町内会は、戦時中に「銃後」を固める役割を果たした。占領軍は町内会の解体を狙っていたが、それに先手を打とうとした再編成案である。案は、新しい町内会の「指導目標」に「隣保自治ノ本義」に基づき、「自主的機能ヲ促進」し、「民主化ヲ図

ルコト」を掲げた。「隣保自治ノ本義」という旧来の考え方の枠組みに、「自主的機能」「民主化」など、占領政策を取り込もうとする苦心のほどがうかがえる。

「アメリカ進駐軍二依ル民主主義大講演会開催ニ関スル件」は、前記つづりの46年2月15日付の文書である。大阪市中之島中央公会堂開催の「米進駐軍アレン中尉」を講師とする講演会への参加を呼び掛けている。前記とこの文書の二つが、池田市の行政文書において「民主主義」の文言が出現した戦後最初の例ではないだろうか。

民主的平和国家の建設

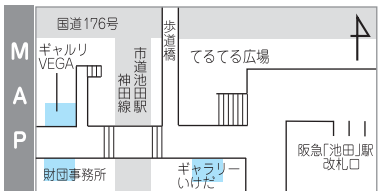
46年3月に開催された市会で、北村市長は市政の基本的な課題は、「民主的平和国家ノ建設」にあると語った。

ほぼ一年前、市長が再推薦された際、市会には再推薦の理由に北村が「非常決戦下」の市政に「寝食ヲ忘レ」邁進したことを挙げていた。市政関係者の認識は、占領軍の民主化政策が進展する中で、大きく転換したかに見える。

前回の元首相・田中角栄の民主主義観を含め、中央・地方の戦後政治が動き始めた。（池田市史編纂委員会委員・芝村篤樹）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6674）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】	
●長井正義・森邦彦 二人展（絵画）	5/1(水)～6(休)
●井関憲子個展－油彩と銅版画による－	5/8(水)～13(月)
●青木隆子日本画展	5/15(水)～20(月)
●NAO「型絵」作品展「植物の軌跡」（大内直恵）	5/22(水)～27(月)
●坂井孝正個展「パリ風景」16回・水彩	5/29(水)～6/3(月)
【ギャルリVEGA】	
●渡辺猪智郎木版画展	5/1(水)～6(休)
●日本現代美術協会 原田グループ展（絵画）	5/8(水)～20(月)
●大阪空港カルチャースクール 箕面駅前スクール合同展（絵画）	5/22(水)～27(月)
●近藤雄士 木の家具展	5/29(水)～6/3(月)

【開館時間】 10：00～19：00（最終日は16：00まで）
 【休館日】 火曜日
 【入館料】 無料
 【使用料】
 〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
 〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
 【使用期間】 水～翌週月曜日の6日間
 【申し込み】 使用希望月の1年前から
 使用申し込みは
 助いけだ市民文化振興財団
 (☎750・3333)

わがまち 歴史散歩

市史編集だより⑨4

「戦後」と「戦後池田」

⑥ について考える

池田市議会の議場

日本国憲法が公布されたのは、1946（昭和21）年11月である。「天皇は神聖にして侵すべからず」の帝国憲法が、「平和主義」「国民主権」「基本的人権の尊重」をうたう新憲法に替わった。憲法とともに地方自治法が施行され、地方政治の民主化・自治権の拡充が実施された。占領軍の民主改革のもとに、戦後日本の姿が立ち上がったのである。

地方自治法に基づく地方選挙は、47年4月に全国一斉に行われた。新しい池田市議会が開かれたのは同じ年の5月、議場は室町会館であった。開会の冒頭、その議場について一人の議員から強い異議が出た。すなわち、戦時中もこの会場が使われ、「畳の上で一時間か二時間で議決されて居った」、座ったまま発言し、満足に傍聴人も入れない、「新憲法下に於いて」こんな会場は「甚だ不適当」、「民主主義政治の第一歩を踏み出す会場として果たして適

当であるか」。新市長の武田義三を含め、すべての発言者がその趣旨に賛同した。「新憲法」と「民主政治」は、池田市政の共通認識になったようである。

壇の上と下

前々回から、戦後民主主義がどのように受け入れられたかの過程を見て来た。次もその例である（『新修池田市史』第4巻（現代編）1章4節参照）。

占領軍の労働組合結成の奨励のもと、折からの生活苦を背景に続々と労働組合が産声を上げた。池田において、先頭を切ったのは教員である。準備会を経て、46年2月に池田市教員組合の結成大会が開かれた。

この時各学校の校長も参加し、壇上に座ろうとしたが、会場を準備していた青年部員が平場の席に案内した。これは若い執行委員が座ったという。これを見た組合員は、「なるほど、組合は世の中を変えるものだ」と実感した（『池教組35年のたたかい』）。

敗北を抱きしめて

『敗北を抱きしめて』はアメリカ人研究者ジョン・ダワーの著書である。著者は述べている。日本の占領は「白人の責務」という「植民地主義的うぬぼれ」の例であり、民主主義改革を権威主義的な支配によって推進するという逆説に満ちた試みであった。なぜ「鬼畜米英」を叫んだ



議場にも使用された室町会館

日本人が、民主主義を受け入れたのか？

大勢順応は「淳風美俗」とする考え、「五箇条の御誓文」「大正デモクラシー」など「民主的」な先例の存在など。五次にわたって内閣を組織し、戦後の軌道を敷いた吉田茂は、戦前以来の「国体」は全く変わらぬ、新憲法によって表現が変わったに過ぎないと言った。

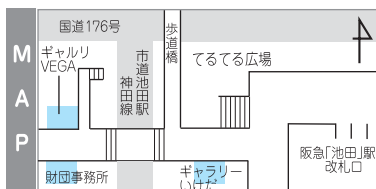
他方、日本の民衆は民主化政策で、戦争と軍国主義から解放され自由を求め、知識人は民主化を自発的に推進しようとした。「民主主義」は、アメリカのような豊かさを得る方法との考えもあった。日本人は、自らさまざまな立場から「敗北を抱きしめ」たのだ。

この著書は、一筋縄でない戦後と戦後民主主義を、モザイク模様のように描いている。

（池田市史編集委員会委員・芝村篤樹）

問い合わせは生涯学習推進課市史編集（☎754・6674）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 坂井孝正個展 「パリ風景」 16回水彩画 6/3(月)～6/3(月)
- 第5回 山路均 油彩画 6/5(水)～10(日)
- 「お～い雲 '13」 硯賣代司パステル画展 6/12(水)～17(日)
- 第3回 鹿取紫雲展 (染色) 6/19(水)～24(日)
- 野村和男 水彩画展 6/26(水)～7/1(日)

【ギャルリVEGA】

- 近藤雄士 木の家具展 6/3(月)～6/3(月)
- Culture Salon 半蔵作品展 6/3(月)～6/3(月)
- 第31回裸婦クロッキー展 6/5(水)～10(日)
- 第3回 Les Putias展 6/12(水)～16(日)
- 「えかきたち」 6/19(水)～24(日)
- 井上浩三 陶展 6/26(水)～7/1(日)

【開館時間】 10:00～19:00 (最終日は16:00まで)

【休館日】 火曜日

【入館料】 無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉5万円 (展示販売不可)

〈ギャルリVEGA〉15万円 (ブロックの分割)

使用＝7・10万円＝、展示販売も可)

【使用期間】 水～翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
財いけだ市民文化振興財団
(☎750・3333)

わがまち
歴史散歩

市史編纂だより96

「戦後」と「戦後池田」
について考える⑦

初代公選市長・武田義三

1947（昭和22）年4月、初めて行われた統一地方選挙で池田市の市長に武田義三が選ばれた。住民の直接選挙によって選出された、初代の公選市長である。

武田はその後、1975年まで7選を重ねた。敗戦直後から高度経済成長の終わるまで、50歳の働き盛りから78歳に至るまで、武田は池田市長の座を占め続けた。

全国で七選市長は当時、三重県鈴鹿市市長と二人だけである。つまり、28年にわたる長期市政は、当時において極めて珍しいことであった。この間に、市長あるいは町村長の大幅な変動を迫る状況が、全国的に幾度か起こった。しかし武田は、それらを乗り越え長期市政を築いたのである。

公職追放、追放解除、
革新自治体

占領軍は1946年から47年の

初めまでに、旧軍人・政治家・地方有力者など20万人余りを公職から追放した。戦前からの有力者の多くが追放され、中央政界、地方政界の顔ぶれが一新された。池田では、戦時体制下で国務大臣を務めた小林一三や元市長の北村貞次、井上道夫などが追放の対象となった。敗戦直後や公選第一期においては、市長や町村長の交代が珍しくなかった。旧来の有力者の追放と、それに代わる人材の不足によると思われる。

公職追放は、講和条約の締結と日本の独立（1952年）を前に、全面的に解除されることになった。鳩山一郎、岸信介などが中央政界に復帰した。事情は地方政界でも同様であった。第二回統一地方選挙の1951年と三回目の1955年に行われた選挙において、追放されていた多くの地方有力者が前任者を退け、市町村長に返り咲いた。

次の変動は、高度経済成長が頂点に近づいた1960年代の半ば以後（昭和40年代）に起こった。大都市とその周辺都市を中心に公害などの都市問題が激しくなり、従来の市政の転換を求める声が高まり、国民党の社会党や共産党などに推された市長が続々と保守系の前任者を破って現れたのである。

彼らは革新市長と称された。1970年代の初めの革新市長下の革新自治体の人口が全国の三分の一以上を占めたといわれる。



初登庁の武田市長（昭和22年4月）

長期市政の謎

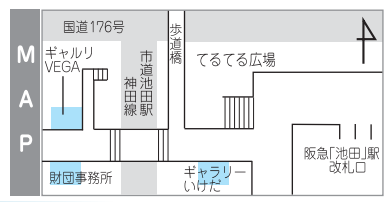
武田義三は高等小学校卒業後、大阪船場の帯芯商店に勤め、養子となって経営を継ぎ、1917（大正6）年に細河村の伏尾に工場を置いた。1936（昭和11）年には、大阪市中心部の選挙区から民政党候補として衆議院議員選挙に出馬している。結果は次点であった。戦時中には中小工業を統合した池田産報協力会社社長を務め、産業報国会池田支部の支部長を務めた。事業者として、池田における戦時体制の形成に大きな働きをしたのである。

このような前歴をもつ武田が、なぜ激動の戦後28年間、池田市政を担い続けることができたのか。武田は、戦後日本あるいは戦後池田を体現するところがあったと思われる。次号以下で、その点について考えていきたい。

（池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6674）

ギャラリーコーナー



<p>【ギャラリーいけだ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●野村和男水彩画展 ~7/1(月) ●船本和美「ワクワドキドキ旅行展」 7/3(水)~8(月) ●船越修 日本画展 7/10(水)~15(祝) ●第2回ドリーム展（川口美治） 7/17(水)~22(月) ●小西恵子 水彩画展 7/24(水)~29(月) ●奥畑司 油彩展 7/31(水)~8/5(月) 	<p>【開館時間】 10:00~19:00（最終日は16:00まで）</p> <p>【休館日】 火曜日</p> <p>【入館料】 無料</p> <p>【使用料】 〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可） 〈ギャラリーVEGA〉15万円（ブロックの分割使用=7・10万円=、展示販売も可）</p> <p>【使用期間】 水~翌週月曜日の6日間</p> <p>【申し込み】 使用希望月の1年前から</p>
<p>【ギャラリーVEGA】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●井上浩三 陶展 ~7/1(月) ●齋藤光子展-陶画- 近作 油絵・パステル 7/3(水)~8(月) ●第13回ACF川西写真展「四季の山野草と花華」 7/10(水)~15(祝) ●京焼窯元「赫三郎窯」展 7/17(水)~22(月) ●久保義浩日本画展 7/17(水)~22(月) ●カルチャーVEGA教室 夏展 7/24(水)~29(月) ●第2回真夏のサムホール展 7/31(水)~8/12(月) 	<p>使用申し込みは （財）いけだ市民文化振興財団 ☎750・3333</p>

わがまち
歴史散歩

市史編纂だより⑨

「戦後」と「戦後池田」

⑧ について考える

運命の分かれ目

なぜ池田市初代公選市長の武田義三は、28年間の長期市政を築くことができたのか。

最初の運命の分かれ目は、公職追放を免れたことである。1936(昭和11)年の衆議院選挙に民政党から立候補し次点で落選したが、もし当選してその後も国政に参与していたなら、追放の可能性は高かったであろう。さらに戦時中には、産業報国会池田支部長を務めるなど、池田の戦時体制の形成に大きな役割を果たした。けれど、公職追放の主なターゲットは軍人・政治家に絞られたから、戦時下において事業者としての活動に終始した武田は追放の対象に挙がらなかった。市長に立候補できたのは、そのためであった。

大物支援者と大物候補

1947(昭和22)年の初当選のいきさつについて、選挙運動を共に

した武田の長男・隆太は次のように語っている(2008年1月21日採話、敬称略)。

「立候補した相手が中田正道さん」「池田で生まれ、池田で育った、政治にも明るい中田か、それとも、よそのの武田、商売は上手くやっているけども政治のことも知らないということだね。下馬評はもう絶対、中田さんが優勢でした」。しかし、「投票二日前にね、当時の国務大臣田中萬逸さんと」「戦後総理大臣になった幣原喜重郎さん、あの二人が応援演説に来てくれたはったんです」「その演説会に、(略)追放中だった小林一三さんがね、演説会に聞きに来られたんです」「それでね、池田の人みんながね、小林さんが聞きに来るくらい、幣原さんなんか応援に来るんやったらね、武田は案外大物と違うかってことで形勢が逆転したんです」。

池田のニューリーダー

1951(昭和26)年の再選のとき、武田は「独壇場」との下馬評を得て無投票当選を果たした。サンフランシスコ講和条約の前に、追放を解除された地方有力者が続々と市町村長に復帰した選挙である。大阪府内17市のうち、10市と過半数の市長が交替し、再選は7市、無投票当選は池田・貝塚の2市のみであった。町村でもほぼ同様の大勢である。次の1955年選挙でも追放解除者の

復帰が目立った。

大阪府内の主な復帰首長として、大阪市長の中井光次(1951年)、堺市長の河盛安之介(1955年)、三村一町合併後に門真町長となった中塚種夫(1957年)などがある。

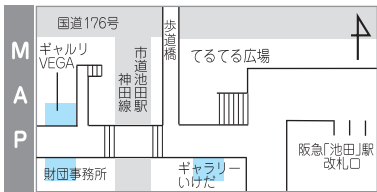
武田は、すでに初当選のとき、1936年衆院選以来の田中・幣原という民政党系大物人脈につながり、池田を代表する名士である小林一三の支持を得ていた。追放された旧有力者をしのぐ、池田のニューリーダーの資格を十分に備えていたのである。小林一三は日記に「(四月)四日夜、国務大臣幣原喜重郎さんが、池田市長の候補者武田義三君応援のため池田へ来られたので敬意を表しにお伺いした」と書き、選挙直後に自邸を訪問した新市長の武田について次のように記している。「昼飯を共にして雑談。武田市長は官僚畑でない丈に指導すればウマクやるかもしれないと思つた、感じた」(『小林一三日記』二)。



応援に訪れた幣原喜重郎(前列中央)と小林一三(後列右2番目)

(池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹)
問い合わせは生涯学習推進課市史編纂(☎754・6674)

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 奥畑司 油彩展 ~8/5(月)
- 笹部信行・達川悦子 二人展 8/7(水)~12(月)
- 万島澄恵展~心の色鉛筆~ 8/21(水)~26(月)
- 小森慎三 素描水彩画展(人物・風景・静物) 8/28(水)~9/2(月)

【ギャルリVEGA】

- 第2回真夏のサムホール展
-サムホールが集う真夏の祭典- ~8/12(月)
- 越信行写真展
「駅彩~信州メルヘン駅街道」 8/21(水)~26(月)

【開館時間】10:00~19:00(最終日は16:00まで)

【休館日】火曜日、8/14(水)~19(月)

【入館料】無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉5万円(展示販売不可)
〈ギャルリVEGA〉15万円(ブロックの分割使用=7・10万円=、展示販売も可)

【使用期間】水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
財いけだ市民文化振興財団
(☎750・3333)

わがまち
歴史散歩

市史編纂だより 98

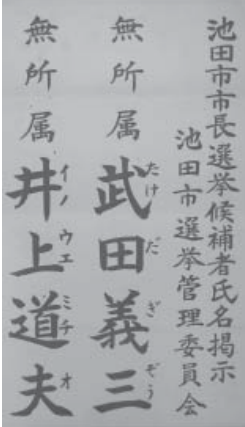
「戦後」と「戦後池田」

⑨ について考える

有力者の挑戦

初代公選市長の武田義三は、前号で述べたように地方政治では新人とはいえ、実は小林一三や幣原喜重郎などの支援を受け、事業者としても実績を積んだ池田屈指の有力者であった。市長に当選し、その後も当選を重ねた理由の一つである。

しかし、全国で公職追放から復帰した有力者が新人首長の座を脅かしたのに似て、武田は旧来の有力政治家に度々戦いを挑まれた。初戦の市長選挙の対抗馬・中田正道は戦前に池田市助役を務め、1955年（昭和30）の3選を阻もうとした南



▶1959年市長選の候補者氏名揭示用紙

幸太郎は、戦前から議員歴を重ねたベテラン政治家であった。4選時（1959年）には井上道夫が出馬した。この市長選挙は、戦前以来の池田の有力政治家が武田に挑む最大かつ最後の決戦であった。

ウルトラC

井上は、1941年に池田市助役に就き、戦後の1946年9月に北村貞次の後を継いで市長に就任した。当時は市会の選任である。しかし、折からの公職追放で市長辞任を余儀なくされた。その後井上は、運輸事業の経営に転じ、池田高校PTA会長、社団法人室町会会長など数多くの地域団体役員を務める地域の有力者でもあった。

武田と井上は、選挙地盤の上でも競合した。市中心部、サラリーマン層や商工業者層である。元市長の北村貞次、元市会議長の木村源三郎など、戦前以来の市政人が井上陣営に結集し、武田には現役の市議会議員や市の関係団体が味方した。地元紙の『週刊北摂朝日』は、選挙直前の情勢について「依然両者とも勢力伯仲の五分と五分」と伝えた。

結果は武田が接戦を制した。選挙から30年近く後のことだが、井上は市長選挙について次のように回顧している。「百戦錬磨の武田氏に最終日になってウルトラCの非常手段を打たれて（略）惜敗をして涙を呑んだ」（井上道夫『写真が語る私の人

生』）。「ウルトラC」が何だったのか明らかでない。ともあれ、ここから選挙の激戦ぶりがうかがえる。

小林一三と武田市政

小林一三は、郊外住宅地を開発し、宝塚少女歌劇団を創設するなど、革新的な電鉄経営者として有名である。また、第二次近衛文麿内閣の商工大臣に就任し（1940年）、軍部の進める統制経済と相いれずに辞任したオールド・リベラリストとしても名が高い。

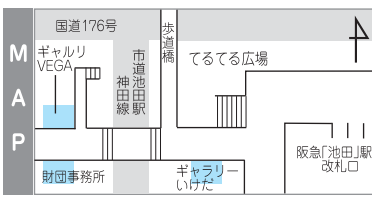
今回の『新修池田市史』第4巻（現代編）では、単に池田に長く居住しただけではない、小林の池田との深いかかわりに迫ろうとした。詳しくは市史をご覧ください。結論からいえば、小林は池田の地域政治の要に位置し、武田市政を支える支柱であった。

その小林一三が亡くなったのは1957年1月、池田と池田市政を大きく変化させる高度経済成長の足音が近づいていた。武田・井上の新旧決戦は、それから2年後である。高度経済成長期に対応する武田市政の新しい構造と政策が形成の最中にあった。

（池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6674）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 小森慎三 素描水彩画展（人物・風景・静物） ~9/2(月)
- 河野俊也展（絵画） 9/4(水)~9(月)
- 佐々木和子個展（絵画） 9/11(水)~16(祝)
- 橋本多嘉子絵画展 9/18(水)~23(祝)
- 「きもの座京都」作品展 9/25(水)~30(月)

【ギャルリVEGA】

- ギャルリVEGA所蔵作品展「池田名画展」 ~9/2(月)
- 「ごきげんさん」伊藤亜矢美木版画展 9/4(水)~9(月)
- 吉永沙母アクリル絵画展 9/4(水)~9(月)
- 岡田元史日本画展 9/11(水)~16(祝)
- 第13回 グループ“翔”展 9/18(水)~23(祝)
- 第11回 同友会・KO絵画研究会 合同作品展 9/25(水)~30(月)

【開館時間】

10:00~19:00（最終日は16:00）

【休館日】火曜日

【入館料】無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）

〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割

使用=7・10万円=、展示販売も可）

【使用期間】水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
（助）いけだ市民文化振興財団
☎750・3333

わがまち
歴史散歩

市史編纂だより(99)

「戦後」と「戦後池田」

⑩ について考える

亭主関白の典型

これまでに初代公選市長・武田義三の28年間に及ぶ長期市政の謎について考えてきた。しかしまだ、高度経済成長期の武田市政には触れていない。その前に、武田の人柄や初期武田市政の政策について見てみよう(以下敬称略)。

義三の長男の隆太から話を聞いたとき、同時に妻の澄子に家庭での義父について伺った。「人をひきつける何かがあった」「色気があるというか」。しかし家庭人としては、「仕事だけ。嫁の身からは怖い親だった」「亭主関白の典型だった」「もうねえ、家のことなんか全然。孫の顔も知らんような人でしたねえ」「仕事だけですわね」。

政治好き、遊び好き

若生正は、武田の側近として身近に接し、武田の後、池田市長の職に就いた。若生は次のように語る。「あの人は政治好き」「市民病院つくる

のもね、豊中に次いで2番目ですよ」「その時でもね、京都と大阪大学、てんびんにかけはりますねん」「遊びにも熱心であった。「遊び人」から「ケチらんかった」「ですから祇園でもよう、連れて行つてくれました」(2006年3月16日採話)。

森久巳は五月丘住宅事業など市政の重要課題に取り組み、後に助役を務めた。五月丘開発事業の最中、市長は「自分が夕べ考えたことをメモして持って来よんねん。それをわたしに言うて聞かしよるわけや」。「武田さんは自分の頭で考えて、自分で何でも実行する人やった」「28年間、あの人はいはずに。政治の好きな人ですわ。政治のことばかり考えてる」(同6月14日採話)。

ジョウ舌とラツ腕

新聞記者は、市長をどう見たか。地元紙『週刊北摂朝日』の記者は、4選から半年後の武田について次のように記した。「池田市会は雄弁多才の士を知られる議会だが、正直に言うてまだ武田さんと互角に渡り合える剛の者は少ない」「舞台裏の諸事百般の掛け引きでも言える」。「そのジョウ舌とラツ腕をもってすれば、市長会のトップクラスに位する」。「4選という長期間の信任に応うるだけの魅力」は、「雑草のもつ根強い魅力」。「一戦必勝、理クツ抜き粘りの粘り、歩いた後は草も生やさぬ江州人の凶太さ」(1959年10月11日付)。

武田市長の銅像建立記念式が、1964(昭和39)年に挙行された。記念誌に祝辞を寄せた栃木県宇都宮市長は、「現職市長として等身大の像が建てられたということは全国でもはじめて」と記している。そのこともあってか、銅像建立の準備過程で世話人会においても建立の是非について議論になった。建立に踏み切ったのは、「武田氏の心境を中心に再度検討」した結果という。五月山の茶臼山公園に立つ銅像は、このように武田市長の強烈な個性を「像」に映し、今に伝えている(『武田市長寿像建立記念』同世話人会編)。

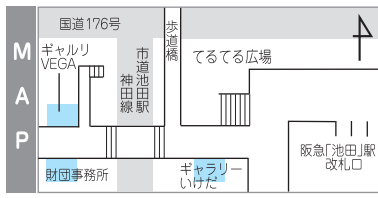


(池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹)

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂(☎754・6674)

※9月1日号の小林二三の没年について、「1956年」とあるのは「1957年」の誤りでした。おわびして訂正します。

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 「きもの座京都」作品展(後期…大東伸・鳴瀬直幸) 10/2(水)~7(月)
- 岡元禮子個展 ~チュニジアからモロッコへ~ 10/9(水)~14(祝)
- スピリチュアル「つながる命」(三家寿子) 10/16(水)~21(月)
- 白井武志水彩画展 10/23(水)~28(月)
- 出口彰水彩画展 10/30(水)~11/4(休)

【ギャルリVEGA】

- 工房開設20周年 クラフト樺展 池田 10/2(水)~7(月)
- 三谷照男 水彩画回顧展 3 10/9(水)~14(祝)
- 第9回 三四夢会展 10/9(水)~14(祝)
- 安食慎太郎個展 10/16(水)~21(月)
- 近藤雄士「木の家具展」 10/23(水)~28(月)
- 第36回彩赤会展 10/23(水)~28(月)
- 第24回IKEDA文化DAY 「池田百景写真コンクール」(9頁参照) 10/30(水)~11/4(休)

【開館時間】

10:00~19:00(最終日は16:00)

【休館日】 火曜日

【入館料】 無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉5万円(展示販売不可)

〈ギャルリVEGA〉15万円(ブロックの分割

使用=7・10万円=、展示販売も可)

【使用期間】 水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
 (財)いけだ市民文化振興財団
 (☎750・3333)

わがまち 歴史散歩

市史編纂だより100

「戦後」と「戦後池田」

⑪ について考える

武田義三の原点

28年間におよぶ長期市政の性格を考えると、武田義三の事業経営者という経歴が重要だと思える（以下、敬称略）。

長男の隆太は、父・義三の若いころについて「朝起きて、ホンマに一日仕事で、毎日苦しい仕事してきたんや」と語ったと述べている。他方、「昭和の始めごろにねえ、飛行機から宣伝ビラをばらまいたんです。そういう、まあ、思い切ったことをする」斬新なアイデアを持つ経営者であったという。

隆太はさらに、義三が「(戦時下に)織機140台を供出して、まあ国のため思うて提出したのですね。結局役に立たずに、(略)放置されたままやったんです」「それが非常にやっぱし、残念やったようですね」「政治家に傾く、商売をやめる一つの転機になったように思います」と語っている(2008年1月21日採話)。

武田は、戦前池田の中小工業を代表する有能な経営者であった。労苦をいとわぬ粘り、斬新なアイデアを求めた探究心、それに戦時下での事業経営者としての無念の思いなどが人間・武田義三の原点にあったといえる。

文化・教育都市

まちづくり

という点からは、小林一三の影響が大きかったと思える。小林は、敗戦直後の1945(昭和20)年9月12日の日記に、「池田市を理想的小都会とする私案」と題した文章を記している。池田室町開発以来の郊外都市論の戦後復興版であろう。



1951年に開院した当初の市立池田病院

「池田市を理想の小都会とする私案」と題した文章を記している。池田室町開発以来の郊外都市論の戦後復興版であろう。猪名川による「水都」を構想し、下水と疎開地の整備、学校の拡充、公会堂・図書館・病院の新設などを挙げていた。これと重なるのが、1951年3月市議会で武田市長が語った池田市ビジョンである。

「(池田市は)文化教育都市であるということはもう言をまたない」池田市に住みますれば、(略)文化施設があって教育は安心」「住民はよりよき文化生活ができる」。文化生活の実現のために、教育施設を一層

充実させ、住宅地を開発し、公会堂市民病院、図書館など「十万以下の都市としては最高度の施設」を整え、「池田に相当な知識階級が集まらるる」。「知識階級(中間層)の増加は、市税収入の拡充をもたらすとも考えられた。

住んで得する池田

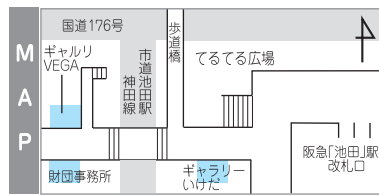
武田市長は1950年3月市議会で、自らの施策は「市民への税の還元施策であります」とし、「還元施策」とは「最低の税を取りましても、できる限り市民への税の還元的措置をとる」「最低の税の中で」「市民の福利幸福のあるような事業を行う」と述べている。市政は、サービス行政との意味である。「還元施策」は、後に「住んで得する池田」という標語になった。事業家出身らしい、気恥ずかしくなるほどの分かりやすくて率直な表現である。

「文化教育都市」は、戦前に芽生えた郊外都市・池田のイメージを継いでいた。「住んで得する池田」に似た地方行政の考え方は、戦前の日本にも見られた。しかし、第一期市政で、それらを市政の基本として明確にした武田は、戦後市政のパイオニアといえる。

(池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹)

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂(☎754・6674)

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 出口彰水彩画展 ~11/4(休)
- 中山光弘水彩画展 11/6(休)~11(月)
- 一移ろいの中でー 中村幸枝洋画展 11/13(休)~18(月)
- 河合絵一 音色画展 11/20(休)~25(月)
- 第2回島田憲次油絵作品展 11/27(休)~12/2(月)

【ギャラリーVEGA】

- 第24回IKEDA文化DAY「池田百景写真コンクール」 ~11/4(休)
- 第4回佐々木和子絵画教室展 11/6(休)~11(月)
- 手作りハウス 11/13(休)~18(月)
- 第5回いろいろの会絵画展 11/13(休)~18(月)
- 池田・千里創美会展 11/20(休)~25(月)
- Kibecraft Exhibition 11/27(休)~12/2(月)

【開館時間】

10:00~19:00 (最終日は16:00)

【休館日】 火曜日

【入館料】 無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉5万円(展示販売不可)

〈ギャラリーVEGA〉15万円(ブロックの分割

使用=7・10万円=、展示販売も可)

【使用期間】 水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
 (財)いけだ市民文化振興財団
 (☎750・3333)